

## はじめに

下水道は都市基盤の要であり、およそ文化都市としての必須の条件といわれています。下水道は、私たち市民の居住環境を改善し、文化生活を向上させてくれるのみならず、周辺の海や川の水質の保全・浄化に役立ち、これを整備することは子々孫々に対する私たちの責務であります。

本市の公共下水道を計画するに当たっては、巨額の費用と長い期間に渡ることを踏まえても実施していかなければならない重要な社会インフラにとらえ、昭和 58 年当時に約 60 年間かけて市内全域を公共下水道で整備する計画が決定され、整備を進めてきたところであります。

この時代の主流は処理場を一箇所で計画する方がよいとの考えから、計画では終末処理場の建設位置について、数箇所の候補地から紆余曲折のうえ、佐斐神町の皆様のご理解、ご協力により今の場所に決定されたところであります。

各地域の整備時期に差異が生じることは、計画の当初から想定されていたことであります。

しかしながら、公共下水道の着手以後 20 年を経過した今の時代では、生活排水の処理方式のうち、公共下水道と同等の高機能型の合併浄化槽が普及しております。近隣自治体でも市街地から離れた小さな集落などに対し、この合併浄化槽での整備が短期間で効率的に整備できることから、この方式を取り入れた事例もあります。

ラムサール条約登録の中海の生活排水浄化対策等の推進を図らなければならないことや、今後の公債費の増加、及び整備期間などの課題もあり、現計画で整備が遅くなる中海側の渡町や外江町などにおける処理方式について、合併浄化槽での整備と、従来からの公共下水道計画での実施の両面を、総合的に比較検討してみてもどうかとの考えから、庁内で「生活排水処理方式検討委員会」を発足させ、様々な角度から多面的に検討し、次のとおり取りまとめました。